



杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会

2016年 4月 1日発行

4月号
No. 62

向日市上植野町西小路3-4
杉谷ひろば(連絡先は頁下)

市民参加でまちを変えよう!

ホームページ: <http://sugi.pupu.jp/>

原発も基地も止めた! 改憲も止めよう!

2, 3面
議会報告



杉谷伸夫・61才
向日市議会議員・市民クラブ
上植野町イトピア在住

3月には、素晴らしいできごとが2つ続けてありました。1つは、沖縄・辺野古の新基地建設工事を一旦中止させたことです。安倍政権にとっては選挙対策目的でしょうが、沖縄県民の圧倒的な民意に反して強引に進めることはできず、方針変更せざるをえなかったのです。2つめは、稼働中の高浜原発3号機を止めたことです。事故以来一貫して変わらぬ原発反対の世論が、司法の姿勢を大きく変えました。

今、潮目が変わってきました。安倍首相は昨秋、集団的自衛権行使を可能とする戦争法強行可決に続き、「憲法9条の改憲をめざす」と暴走を強めていますが、止めることは可能です。今全国各地で、様々な人々の手で「戦争法(安保関連法)の廃止を求める統一署名」

が取り組まれています。「戦争も原発事故もごめんだ!」「平和な普通に暮らせる社会」「1%の金持ちのためでなく、99%が人間らしく生きられる社会」を願う多くの市民の声をつなぎ、安倍政権の暴走を止め、平和と民主主義を守るため、私も全力で頑張ります。(3月24日・杉谷伸夫)

「戦争法の廃止を求める統一署名」、4月24日まで

3月24日現在、888筆の署名を寄せて頂きました。ご協力頂いた皆さまに、お礼申し上げます。しかし目標は2千筆。全国目標は2千万筆ですので、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

4月9日(土) 10:00~12:00

杉谷さんとともにまちを創る会

- まちのこと、社会のこと、語りましょう
- 場所: 杉谷ひろば(新: 上植野町西小路3-4)

催しのご案内

4/21(木) 近畿市民派議員学習会

10時~17時・バンビオ創作室1

テーマ: 公契約条例・改憲問題・空き家対策

有料: 問合せ(090-8384-5984・杉谷)

(一般市民の参加可。希望者はご連絡を)

4/23(土) 平和な沖縄・日本を創る

ー基地問題を考える京都集会

伊波洋一さん(元宜野湾市長)講演他、無料

13:30~・同志社大学寒梅館

連絡先

ご相談はまずお電話を! TEL 090-8384-5984(携帯) FAX 075-921-4101
メール peace@fa2.so-net.ne.jp ホームページ <http://sugi.pupu.jp/>



杉谷伸夫の

議 会 報 告

2月25日～3月17日まで、向日市議会の3月定例会が開かれました。4月以降の予算などを議決しました。議会審議の中から、重要事項を報告します。

一般会計予算に賛成しました

現在、巡回バスや中学校給食など、市民の求める施策を積極的に進めつつある点と、市長が自らの考えを率直に表明し、議会の意見を聞く姿勢を評価し、今後の施策に期待して賛成しました。

私が述べた意見・要望、他

- **コミュニティ・バス**を市民参加で！
コミュニティ・バスを運行する方針を決めましたが、今後成功のカギは、市民参加です。多くの市民の声が反映できるような計画づくりを！
- **中学校給食**は、実現へ準備が進められています。当事者が願う給食の実現へ、さらに準備作業の精力的な推進を求めました。
- **市民参画拠点施設**の実現へ、今年度中に具体的検討を行うこと。
市民参画拠点施設の設置は、向日市の未来を切り開く原動力＝未来への投資です。中途半端

奨学金制度の充実を求める意見書 などを採択

私が提出者または賛成者となって提出した以下の意見書が可決採択されました。また奨学金に関する意見書に、賛成討論をしました。

- 奨学金制度の充実等を求める意見書
- 国の制度としての子ども医療費無料化と国民健康保険財政調整交付金削減のパナルティーをやめることを求める意見書
- 障がい者福祉についての法制度の拡充を求める意見書

なものでなく、多くの市民が目を輝かせるような、素晴らしいものにするよう求めました。

- **市役所の一部駅前への移転**について、市民にいていねいな説明を行うこと、情報をすべて市民に伝え、市民の疑問や意見に答えることを求めました。

- **ごみ収集**の改善を！

本市清掃職員の勤務問題が報道され、市民の関心が集まりました。今が改革の機会です。単に従来通りの家庭ごみ収集を行うだけでなく、市の清掃職員ならではの住民に喜ばれる仕事を積極的に担うよう、改善を求めました。

一方市は**公共施設で資源ごみの終日回収**を今年度中に実施すると表明しました。24時間いつでも公共施設に設置される資源ごみ分別ボックスに出すことができるようになります。

- **国民健康保険料や下水道料金の値上げ**

が示唆されました。国民健康保険財政は構造的な問題解決を国に求めず、値上げで解決するのはまちがっています。下水道料金は、京都府が向日市の負担金引き上げをすることによるものですが、北野台雨水貯留槽の損害の責任問題を抜きに、市民負担を求めることに反対しました。

- **阪急西向日駅前の歩道整備**



基本計画が示されました。歩道整備の他、送迎用駐車スペースの設置など。今後阪急電鉄と詳細協議し、実施に向けた詳細設計になります。

怠慢な運営を厳しく批判！ 乙訓環境衛生組合議会の報告

3月24日、乙訓環境衛生組合議会は4月からのごみ焼却施設の管理運営の全面外部委託や、事業系ごみ処理手数料の減額廃止の2年間延長などを決めました。手数料の減額廃止の延期は、5年間もの間準備を進めてこなかった怠慢の結果です。又ごみ処理施設の業務委託では、適切な委託契約書が作成されていないことを厳しく指摘しました。乙訓環境衛生組合は、重要な内容を議会に報告しなかったり、直前になって提案するなど、怠慢運営・議会軽視が目立ちます。悪しき体質の抜本改革に取り組みます！

杉谷伸夫の 一般質問より

庁舎移転計画 市民に情報と説明を

Q 市役所本庁舎の耐震診断結果が悪かったことを受け、市役所の窓口機能の多くを東向日駅前に移転する計画が示された。市民の利便性が向上すると思うが、市役所は向日市の中核施設であり市民への周知と合意づくりが必要だ。今後どのように進めていく考えか？

A 早急に現在の本庁舎を耐震補強しなければならぬこと、市役所を新たに建設するには、土地の確保や費用がかさむことから、今回的一部移転が現実的に採用できる案だ。庁舎の一部移転は、これからの本市のまちづくりの在り方にも多大な影響を与えたとらえている。移転内容の詳細が確定した時点で、議会にも市民にも情報を示すよう心がける。



シリーズ 原発事故①⑥

稼働中の原発を 止めた！

3月9日、大津地裁は高浜3・4号機について、「過酷事故対策が不十分、津波対策や避難計画にも疑問が残る。関西電力は原発の安全性について説明を尽くしていない」として、運転差し止めの仮処分決定を行ないました。その結果、稼働中の高浜原発3号機は翌日運転停止しました。すごいことです！

市民会館の耐震診断結果

3月末に検討結果を報告

Q 市民会館は、2月中旬以降使用申込みを中止しているが、利用者市民に詳しい情報提供を求める。また、今後の方向については、市民参加の検討委員会を設けてほしい。

A 市民会館は、耐震診断が「非常に悪いIs値になる可能性がある」との速報があった。精査し、3月末を目途に最終判断をして、市民にお知らせする。その後、現在策定中の「公共施設総合管理計画」を定め、対応を検討していく。

東向日駅前の景観 対策を！

Q 東向日駅前のパチンコ店が大規模拡張されたが、市民からは駅前の雰囲気、ひいては本市全体のイメージに悪影響があるとの声が多数寄せられている。向日市は、この現状をどう考えるか。また、東向日駅前は、現在作成中の景観計画の対象になっているか？

A パチンコ店の増築については、景観に配慮するよう指導を行ってきた。建築物や色彩等は法令に反しておらず、規制することは困難だ。東向日駅前は商業系の用途地域としており、景観計画の対象地域にはしていない。景観規制を行うには、景観条例の制定が必要である。

大津地裁の判決は、市民の不安に答える極めて良識的な決定です。福井地裁に続き、別の裁判官が差し止めを決めたことから、これから全国各地の裁判所で、次々と差し止め判決が続く可能性があります。そうすれば電力会社も、先行きの見えない不安定な原発に頼る事業計画を見直さざるをえなくなるでしょう。

一方関西電力は、5月から予定していた電気料金の値下げを見送ると発表しました。でも心配には及びません。4月からは電力小売りが全面自由化されるので、私たちは危険な原発に固執する関西電力でなく、別の安い電力会社を選べばよいのです！ デンキを選べば社会が変わる！ Webで「パワーシフト」で検索して調べてみましょう。

木材再生について考える

安野 洋子

今月（3月）庭続きの母屋（築85年）を壊すことになった。私が78年間使用していた家を壊すことには大きな寂しさを感じた。

何か生かすことがないかと思っていたら、古い木材を再利用して家を造っている女性が見に来てくれた。木のドアや、むらむらガラス（大正から昭和にかけてのもの）など持って帰ってくれてホットした。床の間の板、大黒柱、欄間などはなかなか再利用するところがないらしい。家族の形態が変わるし、また土地を分割するために家を壊さなくてはならないが、古いものが無くなっていくことは残念な事だった。

丁度同じ頃、岡山県真庭市のバイオマスツアーに参加する機会があった。バイオマスとは植物などの生物から生まれた再生出来る資源の事を言う。バイオマスはCO₂（二酸化炭素）を増加させない「カーボン・ニュートラル」と言われる特徴から、地球温暖化防止・地域資源の活用により持続

可能な循環型社会が実現出来ると言われている。

真庭市は昔から木材業の盛んな地域で、バイオマス産業都市として先進地である。木材を利用して新しいエネルギー「ペレット」の製造と「バイオマス発電」工場を見学した。ペレットとは、おがくずやかんなくずの製材廃材や未利用木材といった木質系の副産物を粉砕・圧縮し、成形した固形燃料のことである。CO₂の排出量が少ないため石油・石炭の代替燃料として注目されている。

バイオマス発電は木質専焼発電であり、真庭市48,000人程の人口（向日市と同じくらい）の全使用量をまかない、余った電力は販売している。反原発の視点にたった時、太陽光発電・風力発電と共に山林の多い日本として、バイオマスを日本全体で考えていいのではないかと思う。



住民自治の立場で市庁舎移転、競輪場問題を

徳本 茂孝

市庁舎の一部がイオン跡地に移転すると報道された。寝耳に水であった。3月4日、市議会でこの問題が取り上げられると聞き、傍聴に出かけた。杉谷伸夫市議が、持ち時間をフルに使い、発言された。おおむね、私たちの声を代弁されていたと感じる。市側がこのような大きな予算を使い、市民に影響を与える計画が、公表されないままに進められることを疑問に思っていた。

耐震診断による補強工事が必要で、それに伴う庁舎の使用室内面積の縮小という思いがけない事態。イオン跡地のビル建設の同時進行と市財政の

事情での判断は、ある程度の理解はできる。その一方で、市民への説明、市民の声を反映する努力をしたのか、住民自治の立場から批判が出ている。

近年、自然災害は巨大化し、地震は活動期に入ったと伝えられる。若狭の原発、特に事故続きの高浜原発は気になる。市庁舎が防災の拠点としてしっかり機能するものであってほしい。そうした方向で市庁舎の耐震・移転問題が、行政と住民の間で情報共有され、話し合われるよう要請したい。

今日（3月16日）京都新聞に「向日町競輪場、4年後に廃止も」と報じられていた。老朽化のための改修に、25億円必要になったという。関係市町と協議を進めるとしている。競輪場は市中心部に位置し、廃止後の活用は市民にとっての悲願であった。ギャンブル都市のイメージを払拭する機会である。歴史と文化のまち、本来の文教都市としての姿を取り戻すチャンス。市民との対話による新しいまちづくりを期待したい。